

ひと夏の思い出

対象児：3歳児ゆり組
作成者：青木七海
作成日：2025.09.03

○ねらい：友だちとのかかわりを持ちながら、夏ならではの遊びを楽しむ。

キラキラのとれた？



くろいのだけとった！



つれた～！



もういっかい！



○保育の振り返り

夏休み中、年長さんによるお祭りごっこに参加し、「明日もお祭りあるかな～」と楽しかった思い出を話していたので、ゆり組さんでもお祭りごっこをしようと計画しました。グループに分かれてそれぞれ喜んでタコやイカ、金魚を作りをし、室内で金魚すくいや宝石すくい、魚釣りを楽しみました。金魚や宝石の入ったタライには水が入っており、いつもより特別感のある雰囲気で大興奮の子ども達。危険のないよう、約束事として「水が床にこぼれないようにすくうこと、友だちと順番に遊ぶこと」を伝え、遊びを進めていきました。宝石すくいが気に入って、その場にずっととどまる子もいたり、磁石がくっつくのが面白くて何個魚をつけられるか試したりする子もあり、思っているよりも長い時間楽しんでいました。魚釣りの魚がほとんど釣れて魚がなくなってしまうと、自ら考えて逃がす（フラフープの中に戻す）子もありました。もしかすると自分の釣る分を確保したくて戻したのかもしれませんが、保育者が「これでみんな釣れるね！」と声を掛けると「一緒にしよ～！」と友だちに声を掛ける姿が見られました。また、釣り竿の数が人数の半分ぐらいしか保育者が作らなかった為、「さっき貸してあげたんよ～！」と友だちへの優しさや思いやりが見られる場面もあり、みんなで楽しむ事ができました。

ねらいとしては、友だちとのかかわりを持って楽しむ事に焦点を当てましたが、磁石に興味を持つ子もいたので、魚を作る段階で磁石遊びを活動に取り入れるととってもいろいろな発見があって面白かったかな、とも思いました。子ども達の発見や発言、動きをよく見てその意図を読み取ったり、気付いたことを言語化して伝えたりすることで、物事の理解が深められたり成長が促されたりするということを改めて感じました。「幼稚園楽しかった！」と思えるような遊びを、子ども達との会話の中でみつけて、一緒に考えていきたいです。（協同性、社会生活との関わり、言葉による伝え合い）